



渋谷区立原宿外苑中学校

令和4年11月号（11月1日発行）

学校だより



<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/haragaij>

民間企業トップリーダーの知見から「これからの学校教育」を展望する

校長 駒崎 彰一

数年前に参加した会議でのこと、ITコンサルティング企業 フューチャー株式会社の会長兼社長グループ CEO 金丸 恭文 氏の発言が深く心に残っています。“日本の学校では主要5科目が重視され、これらに秀でて記憶力の高い生徒が「エリート」となる。この「エリート」を新入社員として採用しても「即戦力」として活躍することができないのが日本の教育の現状。日本の学校教育は、記憶力を競い合う時代遅れのクイズ番組のよう。企業で教育をしないと「戦力」にならない……。”

「より良い学校教育を通して、よりよい社会を創る」

これは、我々、学校教育を生業としている者の「使命」です。何のために「学び」が必要なのか？ 我々の実践する学校教育の先にあるものは……ということについて深く問い質された発言でした。

精密小型モータの開発・製造において世界一のシェアを誇る日本電産株式会社の会長兼 CEO 永守 重信 氏も経営者として年間1万人以上の採用に関わっている中で、有名大学出身者が就職後に必ず活躍しているわけではないことに気づき、「教育を変えれば、人は変わる」を理念として、2018年より自ら大学経営に乗り出しています。2021年には附属高校・中学校も設置して一貫教育を展開。自分のやりたいことよりもテストの点数で有名大学に入ることにこだわる「ブランド大学主義」の日本の教育システムでは、若者の能力を十分に伸ばしきれないと主張しています。

海外では、大学までで学んできた専門知識や研究内容が、その後のビジネスの場で活かせるかどうか問われるため、学生のうちからインターンシップなどに参加して、自らの経験と能力を磨いておくのが一般的です。このことから、学校教育も「社会で必要な人材、求められる人材」の育成が中心となります。日本では……。

これまで日本の学校教育の中心であった「知識の習得」に加え、社会で必要な人材、求められる人材としての「資質や能力の育成」。学校教育をこの2つの視点から捉え直し、再構築していく必要があります。

特に後者については、社会課題や生活課題の当事者として、課題の構造を見極めながら自分に足りない知恵（知識）を集め、異なる（様々な）他者との対話を通じて、正解のない課題にチャレンジしていく「学び」が必要であり、現在の変化の激しいビジネスの世界での人材育成には、最先端の技術（テクノロジー）とエビデンス（科学的根拠）を最大限活用していく必要があると言われてい

ます。先述の金丸氏は、学生向けの講演会で「まずは小さな挑戦でいいから、とにかく始めましょう。毎日、どんな些細なことでもいいので挑戦を続けて、少しずつ取れるリスクを大きくしていく。若い頃からの失敗と成功の蓄積が、いざというとき必ず役に立ちます。進路は本当に好きなことをやれる学校を選んでください。好きで得意な道で勝負し、20代での起業を目指す。世界中で行われている、好きで得意なものでの競争に、ぜひ皆さんも飛び込んでください。」と論じています。

また、永守氏も著書の中で「すぐやる、必ずやる、できるまでやることを徹底できれば必ず人生は開ける。自分の頭でしつかり物事を考え、課題を見つけ、それについて自分の意見を言えるようにすること。さらに（得意分野での）専門的な知識を身につけ、社会に出たときに役に立てる即戦力を身につけておくことである。与えられた環境で課題を解決するために必要な知識や経験を身につけておく必要がある。」と論じています。

経済産業省が今後の人材育成政策などを検討するために設置した「未来人材会議」では、今年5月31日、未来を支える人材の育成・確保に向けた方向性を示す「未来人材ビジョン」(<https://www.meti.go.jp/press/2022/05/20220531001/20220531001-1.pdf>)、を取りまとめ公表しています。この中で「教育」について次のようにまとめています。

今すぐ取り組み実現できるものと、10年がかかりでしか実現しないものがある。

難しいがゆえ、時間軸を意識して、具体的な変革に直ちに着手することが必要である。

初等中等教育から高等教育に至るまで、その在り方自体が根本から変わるべきとの指摘もあった。

しかし、2040年のあるべき教育システムを実現するためには、

2030年代の教育が変わる必要があり、その枠組みを変えるには

2020年代前半に大きな変化を起こす必要がある。

残り時間は、あと数年しかない。

未来社会で活躍できる人材育成を目指して、学校教育現場から「学び」の変革にスピード感をもって挑戦していく必要がある。

なみき祭(舞台発表)

コロナ禍で2年間の中止を経て3年ぶりの開催となった「なみき祭(舞台発表)」。全校生徒が初めて体験する行事となり、これまでの伝統(3年前の実施記録)を活かしながらも、ゼロからの挑戦となりました。

感染症対策のため、合唱コンクール(課題曲のみ)と吹奏楽部演奏のみの実施として午前中での縮小開催。また、参観者については、来賓の参観もお断りして…各家庭保護者1名限定として、オンライン配信にも挑戦しました。合唱の練習やコンクールでは、マスクの着用や常時換気、間隔の保持などの制限付きでの開催となりましたが、どの学年・学級も素晴らしいパフォーマンスを発揮してくれました。吹奏楽部も日頃の練習の成果を発揮した迫力ある演奏により、保護者や教職員を含め全校で「一体感」を感じることができました。



生徒会活動

後期に入り生徒会活動の運営体制が3年生から2年生中心の体制になりました。新生徒会による企画の様々な取組が展開されています。

Summercup2022

生徒会主催の昼休み球技大会。今回はバスケットボール。会場はBGMが流れ、実況・解説があり、全校への映像配信もあります。試合後には勝利者インタビューもあって楽しい時間を全校で共有することができます。優勝チームと教員チームのドリームマッチも恒例になってきました。



ピアノ ミニ コンサート

生徒会主催の新企画となる昼休みピアノミニコンサート。第1回は有志生徒2名と教員のサプライズ演奏となりました。ホットした時間を過ごすことができました。



東京 2020 大会 レガシー展示スペース

オリンピック・パラリンピック東京 2020 大会の幻の観戦チケットや公式グッズを2階トイレ前で展示しています。



表彰

第25回全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール 文部科学大臣賞 3年 佐藤 栞乃
 令和4年度薬物乱用防止標語・ポスターコンクール ポスターの部 最優秀賞 2年 山崎 玲花
 入賞(区長賞) 2年 大西 桜子
 佳作 2年 清水 嶺衣 松田 尚子
 標語の部 最優秀賞 1年 小川 陽生
 入賞(区長賞) 1年 大林 翔 3年 若原 希幸
 佳作 3年 藤野 由宇太 2年 眞島 佑太
 明治神宮献詠短歌大会 秀逸作 1年 小佐野 桜、長谷川 萌音 2年 大島 明莉、大西 桜子、高澤 恵理子
 3年 相川 瑞生桃、土信田 紗羅、柳澤 夏南

令和4年度 税の作文コンクール

東京都税理士会渋谷支部長賞 3年 小川 菜々子 渋谷納税貯蓄組合連合会入選 3年 飯田 恭成

陸上競技部 第75回東京都中学校支部対抗陸上競技選手権大会 3年男子走高跳 第6位 河野 真弥

第70回北区陸上競技選手権大会 共通男子走高跳 第2位 キング レイ 第3位 河野 真弥

共通女子走幅跳 第6位 増本 香穂 共通女子砲丸投 第5位 保坂 紗良

1年男子100m 第7位 村上 永遠 1年男子100mH 第6位 秋元 瞭 第7位 岡本 岳

サッカー部 渋谷区秋季新人大会 第3位

卓球部 渋谷区卓球新人大会 男子シングルス第5位 宮尾 そら

	日	月	火	水	木	金	土
今月の 予定			1	2	3	4	5
				渋谷研一斉	文化の日	教育相談終(3)	
	6	7	8	9	10	11	12
		全校朝礼	安全指導日	後期中間考査始(3)	後期中間考査始(1・2)	後期中間考査終	土曜授業④ 学校公開日 防災訓練 CS
	13	14	15	16	17	18	19
		専門委員会		職員会議・研修会	オリパラ授業		
	20	21	22	23	24	25	26
	生徒朝礼 中央委員会	避難訓練	勤労感謝の日				
27	28	29	30				
	職場体験始(1) TGG(2)		職場体験終(1)				

	日	月	火	水	木	金	土
来月の 予定					1	2	3
					教育相談始		
	4	5	6	7	8	9	10
		全校朝礼	安全指導日	教育相談終			土曜授業④ 学校公開日
	11	12	13	14	15	16	17
		専門委員会	避難訓練	職員会議・研修会	中央委員会	中学校音楽鑑賞教室(2)	
	18	19	20	21	22	23	24
	生徒朝礼			大掃除	全校集会 職員会議・研修会		
25	26	27	28	29	30	31	
	冬季休業日始						